

令和4年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人京都大学

2023年7月



## I. 規程及び体制等の整備状況

### 1. 機関内規程

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）（最新改正：令和2年9月29日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、京都大学における動物実験の実施に関する規程（以下「学内規程」という。）が定められており、必要に応じて最新の情報を反映させるため適宜改正して運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 2. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・全学動物実験委員会名簿 ・部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。 全学委員会及び部局委員会の大半が、基本指針に定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。 全学委員会及び部局委員会の開催時には、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加するよう日程調整、参加方法を考慮している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程施行細則 ・ 京都大学化学物質管理規程 ・ 京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程 ・ 京都大学における病原体等の管理に関する規程
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

## 5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められており、確認に必要な各種書式等も適正に定められている。また、飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

## 6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

令和2年度に外部検証で高く評価された項目は今後も維持し、指摘があった項目は改善に向けて取り組んだ。引き続き、部局の状況に応じた方法で対応するよう進める。

## II. 実施状況

### 1. 動物実験委員会の活動状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学動物実験委員会議事要旨（令和4年7月20日） ・京都大学動物実験委員会議事要旨（令和5年3月23日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 京都大学における動物実験の実施に関する規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項に関して審議した。 今後の重点項目として、動物実験計画書記載時の注意点として、人道的エンドポイントの記載及び苦痛のカテゴリーの基準について周知することとした。
4) 改善の方針、達成予定時期 令和4年3月に人道的エンドポイントの記載及び苦痛のカテゴリーに関する知識取得のため、外部機関の講師による研修会を開催した（受講者数116人）。 令和5年度に動物実験計画書の様式について、人道的エンドポイントの記載漏れを防ぐための改訂を行う予定である。

### 2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・動物実験計画承認報告書 ・動物実験結果報告書 ・自己点検報告書（動物実験実施状況） ・事故報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

### 3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・動物実験計画承認報告書</li><li>・動物実験結果報告書</li><li>・自己点検報告書（動物実験実施状況）</li><li>・動物実験施設飼養保管マニュアル</li><li>・緊急時対応マニュアル</li><li>・逸走時対応マニュアル</li><li>・緊急連絡先</li><li>・事故連絡票等</li></ul>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>法令に適合した動物実験実施状況であることを確認した。また、以下の針刺し2件、切創2件、咬傷6件、転倒1件、火災1件、合計12件の事故等の報告があったため。</p> <p>内訳：文学研究科（咬傷1件）、医学研究科（針刺し2件、転倒1件、咬傷2件、火災1件）、医生物学研究所（切創1件）、ヒト行動進化研究センター（切創1件、咬傷3件）。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守・必要があれば見直しを行い、予防策等を周知徹底する。</p>

### 4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）</li><li>・自己点検報告書（実験室管理状況）</li><li>・動物実験施設飼養保管マニュアル</li><li>・緊急時対応マニュアル</li><li>・逸走時対応マニュアル</li><li>・緊急連絡先</li><li>・事故連絡票等</li></ul>

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

ヒト行動進化研究センターで、動物の逸走や従事者の事故に繋がるヒヤリハットが3件あったため。

4) 改善の方針、達成予定時期

各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底する。逸走防止策として、作業手順の見直し、施設の構造の改善、逸走防止装置について見直し等を実施し、強化を図る。

## 5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・飼養保管施設設置承認報告書
- ・実験室設置承認報告書
- ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）
- ・自己点検報告書（実験室管理状況）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

施設の設置時に規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、自己点検報告書（飼養保管施設管理状況、実験室管理状況）の自己点検報告書の提出によって、適正に維持管理されていることを把握している。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず。

## 6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

- ・教育訓練資料・スライド
- ・京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講履歴
- ・京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講修了証
- ・令和4年度京都大学実験動物管理セミナー受講履歴



<p>京都大学における動物実験教育訓練実施状況（令和4年度）</p> <p>（e-Learning受講者数 <u>1,159</u> 人、それに加え、部局独自の講習会をヒト行動進化研究センターで4回開催 受講者数<u>21</u>人、総合博物館で1回開催 受講者数<u>8</u>人）</p> <p>別紙1のとおり。</p> <p>令和4年度京都大学実験動物管理セミナー 「実験動物福祉の基本原則」「動物実験における苦痛の 카테고리と人道的エンドポイント主な実験動物の特性」、令和5年3月17日（金）開催、講師：岡山理科大学 獣医学部獣医保健看護学科 大和田一雄 教授、受講者数<u>116</u>人</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。また、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨した。また本学の京都大学実験動物管理セミナーを開催し、専門情報修得の機会を設けた。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

## 7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>・京都大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験に関する検証結果報告書、「動物実験に関する情報公開」のホームページ。</p> <p>(<a href="https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku">https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku</a>)</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>大学のホームページに各年度の自己点検・評価報告書及び外部検証の結果報告書をはじめとして、京都大学における動物実験に関する情報を公開している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

## 8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

令和2年度に外部検証で高く評価された項目は今後も維持し、指摘があった項目は改善に向けて取り組むこととする。

### 1) 京都大学における第6条第1号、第2号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授13名、准教授5名
- ・第6条第2号に掲げる委員：教授1名
- ・第6条第3号に掲げる委員：特定教授2名

別紙2のとおり。

### 2) 京都大学における第6条第4号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・動物実験に関して優れた識見を有する者：教授10名、准教授5名、特定教授1名
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者：教授3名
- ・その他学識経験を有する者：教授1名、特定教授1名

別紙2（役割欄）のとおり。

### 3) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授58名、特定教授5名、准教授49名、特定准教授1名、講師16名、特定講師1名、助教21名、産学共同講座教員1名、その他7名（技術職員1名、事務職員4名、学外2名）

### 4) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について

別紙3のとおり。

### 5) 動物種ごとの飼養数・実験動物使用数の集計について

別紙4のとおり。

## 動物実験教育訓練実施状況(令和4年度)

部局名	全学共通 e-Learning 参加人数	左記以外 の講習会 参加人数	学共通e-Learning以外に開催した場合 の研修実施日・実施回数
文学研究科	13	0	
理学研究科	39	0	
医学研究科	331	0	
薬学研究科	108	0	
工学研究科	62	0	
農学研究科	62	0	
人間・環境学研究科	5	0	
情報学研究科	27	0	
生命科学研究科	162	0	
化学研究所	0	0	
医生物学研究所	74	0	
複合原子力科学研究所	40	0	
iPS細胞研究所	73	0	
野生動物研究センター	2	0	
ヒト行動進化研究センター	81	21	4月26日、6月29日、8月5日、10月24日の4回、部局講習会を開催
総合博物館	0	8	5月23日に部局講習会を開催
フィールド科学教育研究センター	27	0	
国際高等教育院	11	0	
環境安全保健機構	0	0	
高等研究院	42	0	
合計	1159	29	

## 京都大学動物実験委員会委員名簿

令和4年4月1日

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	准教授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	教授	③	基礎法学
3	1号	理学研究科	教授	①	動物行動学・爬虫類学・自然史学
4	1号	医学研究科	教授	②	実験動物学・発生工学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	薬剤学
6	1号	工学研究科	教授	①	先端医工学
7	1号	農学研究科	准教授	①	食品生理機能学
8	1号	人間・環境学研究科	教授	①	運動医科学・内分泌代謝学
9	1号	情報学研究科	教授	①	生物環境情報学分野
10	1号	生命科学研究科	准教授	①	細胞生物学
11	1号	化学研究所	教授	①	環境物質化学
12	1号	医生物学研究所	教授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	複合原子力科学研究所	教授	①	放射線腫瘍学、放射線生物学
14	1号	iPS細胞研究所	准教授	①	整形外科学 / 発生生物学
15	1号	野生動物研究センター	教授	①	比較認知科学
16	1号	総合博物館	教授	①	動物系統分類学
17	1号	フィールド科学教育研究センター	教授	①	魚類心理学
18	1号	ヒト行動進化研究センター	教授	②	実験動物学・分子寄生虫学
19	3号	国際高等教育院	特定教授	①	システムウイルス学
20	1号	環境安全保健機構 放射線管理部門	教授	①	細胞生物学・生物工学・放射線安全管理学
21	3号	研究推進部 研究規範マネジメント室	室長	③	研究倫理・研究規範

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（令和4年度）

	動物実験計画書の審査のまとめ						動物実験 従事者数	飼養保管 施設の設 置状況	飼養保管 施設から 独立した 実験室
	許可件数				改訂後許 可 件数	不許可・ 取下げ件 数			
	新規	変更	継続	合計					
文学研究科	9	0	6	15	5	0	24	2	3
理学研究科	15	13	1	29	0	0	105	11	11
医学研究科	126	33	290	449	76	0	1,689	18	81
薬学研究科	5	17	34	56	10	0	132	6	17
工学研究科	3	4	2	9	13	0	93	4	1
農学研究科	26	12	70	108	31	0	1,212	14	23
人間・環境学 研究科	1	0	10	11	0	0	39	2	4
情報学研究科	1	0	9	10	0	0	35	2	1
生命科学研究科	4	2	16	22	0	0	198	11	19
化学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医生物学研究所	34	38	48	120	65	1	403	12	30
複合原子力科学 研究所	16	2	38	56	4	0	175	4	12
iPS細胞研究所	28	25	42	95	65	2	296	2	25
野生動物研究 センター	6	0	18	24	0	0	226	2	0
総合博物館	1	0	1	2	0	0	3	0	0
フィールド科学教育研 究センター	6	0	0	6	0	0	27	1	1
ヒト行動進化研究 センター	53	37	34	124	86	5	686	1	29
国際高等教育院	1	0	0	1	0	0	2	0	0
環境安全保健機構	3	3	19	25	5	0	41	1	3
高等研究院	0	4	3	7	3	0	30	3	5
合 計	338	190	641	1,169	363	8	5,416	97	266

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、医生物学研究所 附属再生実験動物施設、  
iPS細胞研究所 附属動物実験施設、ヒト行動進化研究センター 人類進化モデル研究センター

## 動物種ごとの飼養数(年間平均飼養数)(令和4年度)

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究所	医生物学研 究所	複合原子力 科学研究所	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	総合博物館	フィールド 科学教育研 究センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等教 育院	環境安全保 健機構	高等研究院	合計
マウス	0	42	55,897	9,696	338	1,942	211	0	3,088	0	10,305	454	6,359	0	0	0	1	0	66	1,243	89,642
ラット	0	4	3,859	39	1	3	5	0	3	0	37	9	106	0	0	0	28	0	0	0	4,094
ネズミ	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
モルモット	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ハムスター	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
デグー	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
ウサギ	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59
イヌ	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ブタ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5
ヒツジ	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
ウシ	0	0	0	0	0	107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107
サル類(類人 猿除く)	18	0	101	0	0	0	9	0	0	0	19	0	12	0	0	0	749	0	0	0	908
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	0	0	15	0	0	0	68
鳥類	26	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	858
爬虫類	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	144
	62	1,035	59,979	9,735	339	2,070	225	0	3,091	0	10,362	463	6,480	60	0	0	793	0	66	1,243	96,003

年間平均飼養数 延べ飼養数÷365日(少数点以下切り捨て)

## 動物種ごとの実験動物使用数(令和4年度)

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境学研究科	情報学研究科	生命科学 研究科	化学研究所	医生物学研 究所	複合原子力 科学研究所	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	総合博物館	フィールド 科学教育研 究センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等教 育院	環境安全保 健機構	高等研究院	合計
マウス	0	1,125	78,574	32,665	4,698	44,395	17,729	0	4,438	0	30,714	3,138	11,963	0	0	0	114	0	1,252	3,670	234,475
ラット	0	220	8,896	302	12	29	35	0	37	0	6,251	153	421	0	0	0	340	0	0	0	16,696
ネズミ	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
モルモット	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
ハムスター	0	0	200	0	0	0	0	0	0	0	346	0	0	0	0	0	0	0	0	0	546
デグー	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
ウサギ	0	0	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	122
ブタ	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	57
イヌ	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ヒツジ	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44
ウシ	0	0	0	0	0	113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113
サル類(類人 猿除く)	44	0	81	0	0	0	12	0	0	0	28	0	2	0	0	0	3,113	0	0	0	3,280
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	410	0	0	158	0	0	0	568
鳥類	18	30,200	677	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	152	0	0	0	0	0	0	31,047
爬虫類	0	306	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	306
	77	31,876	88,648	32,967	4,710	44,581	17,776	0	4,475	0	37,339	3,291	12,408	562	0	0	3,725	0	1,252	3,670	287,357

動物実験使用数 (例) 1頭(匹)を2回の実験に使用したとき2頭(匹)と計上(延べ使用数)